

白馬村第 5 次総合計画

(案)

長野県 白馬村

● 第 3 章 基本計画

体系図

基本目標	大分類 (大見出し)	中分類 (中見出し)	頁
暮らし__安心してみんなが暮らせる村	多様性を尊重し、住民が主体的に共生・協働する村づくり	住民参画と協働	1
		開かれた行政運営	2
		多様な人々の交流・共生	2
	安心・安全の生活を支える村づくり	防災・減災の強化	4
		日常の住みよさの確保	6
	支え合う福祉と健康の村づくり	子育て支援	8
		障がい者支援	11
		高齢者福祉	13
		健康づくりと地域医療の充実	14
	自立的・効率的で健全な行財政の村づくり	情報通信技術の活用	16
		行財政改革の推進	17
産業__新しい仕事をつくりだす村	「世界水準」を意識した観光の村づくり	競争力と持続可能性を高める観光地経営	19
	農地と森を守り地産を活かす村づくり	優良農地の保全	22
		農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進	25
		森林の整備と活用	26
	商工業の振興により雇用を生みだす村づくり	商工振興・創業支援	27
	民間活力を活かす村づくり	産官学金労言連携	28
ひと__一人ひとりが成長し活躍できる村	学びあい育てあう村づくり	次代を担う子どもたちの学習支援	29
		生涯学習と青少年育成	30
	生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり	スポーツによる健康づくりと活力の創造	32
	一人ひとりに活躍の場がある村づくり	人のつながりによる活力の創出	34
		男女共同参画社会の推進	35
自然__魅力ある自然を守る村	かけがえのない山岳自然環境を守る村づくり	天恵の自然との共生	36
		自然エネルギーの利活用	36
	自然との生き方を受け継ぐ村づくり	守るべきふるさとの歴史と文化の継承	37
	美しい景観を守り育む村づくり	自然環境に調和したまちづくりの推進	38
	きれいな水と空気に囲まれる村づくり	ごみ処理広域化への対応とごみ減量化	39
		きれいで安心・安全な水環境	41

暮らし 安心してみんなが暮らせる村

多様性を尊重し、住民が主体的に協働・共生する村づくり

住民参画と協働

少子高齢・人口減少社会においては、地域に暮らす人々が地域の中で主体的に村づくりに参画していくことが重要となります。行政運営への理解と参加を促すため、様々な媒体を活用して行政情報を住民に提供するとともに、住民生活や各地域の課題に関する意見交換の場を設けながら、住民、企業、NPO 法人、ボランティア団体等が行うまちづくり活動に対して積極的に情報提供や支援を行い、活動しやすい環境づくりを目指します。

行政区の主体的な取り組みの支援

本村では、古くから行政区を中心としたコミュニティを形成し、各行政区で伝統行事や各種作業、施設の維持管理など相互扶助による住民自治が行われ、信頼と協力関係を築いてきました。しかしながら、少子高齢化や人口減少、住民の多様化、「個」を尊重する社会的変化により、行政区の加入率は低下しています。これからの行政区の意義やあり方を再定義し、地区担当職員制度を活用して各行政区の運営や事業を支援することで、行政と住民が協働する村づくりを推進します。（総務課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
行政区加入率※	52%	60%
地域づくり事業補助金	全地区	全地区

※広報の配布数を住民基本台帳上の世帯数で除しているため、実際の加入率とは異なります。

行政区の継続的な活動の支援

小規模行政区に集落支援員を配置し、農業・移動・除雪・祭り・若者定住など様々な活動を支援することで、コミュニティの維持・活性化を図ります。（総務課・農政課・健康福祉課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
集落支援員数	0 人	2 名

住民活動・NPO 等の支援

住民や白馬ファンの村づくり活動や NPO 等の組織を積極的に支援するとともに、村づくり活動人口を増やし、多様な人が交流・参加する活力ある村づくりを推進します。（総務課）

開かれた行政運営

住民の村づくりに対する関心を高め、住民と行政が同じ目線で問題意識や当事者意識を持って意見交換や活動ができるよう、行政情報を積極的に公開します。

行政情報の発信

広報紙、Web サイト、SNS、ケーブルテレビなど様々な媒体を活用して、村政情報を村内外にわかりやすく発信することで、住民に身近で親しみのある行政を目指します。（総務課）

指標	現状値(H27)	目標値(H32)
白馬村行政ホームページ 月間ページビュー数	60,000PV	70,000PV
行政 Facebook 「いいね！」数	500 いいね！	1,000 いいね！
ケーブルテレビ白馬加入率	50.0%	60.0%

意見交換の場づくり

地区役員懇談会や各種団体との懇談会など、既に実施している機会に加え、住民や村外の白馬ファンも含めて提案・提言しやすい仕組みについて、インターネットの活用も含めて研究します。（総務課）

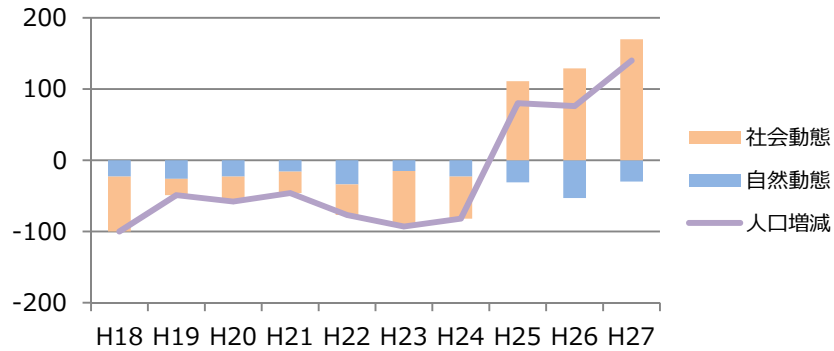
多様な人々の交流・共生

本村は、自然環境に魅了された国内外からの移住者が多く居住しています。文化や国籍の違いを尊重し合い、誰もが地域社会の一員として活躍できる環境を整備するとともに、多様であるからこそ実現できる国際的な村づくりを進めます。

移住・定住の促進

少子高齢化と人口減少による地域の衰退を防ぐため、積極的に移住者を受け入れ、住民との交流やつながりを深めたり、移住者の経験や技術を活用したりすることで地域の活力を維持します。また、地域おこし協力隊の制度を積極的に活用し、まちづくりに必要となる実行者を外部から積極的に呼び込みます。（総務課）

社会動態・自然動態・人口増減の推移

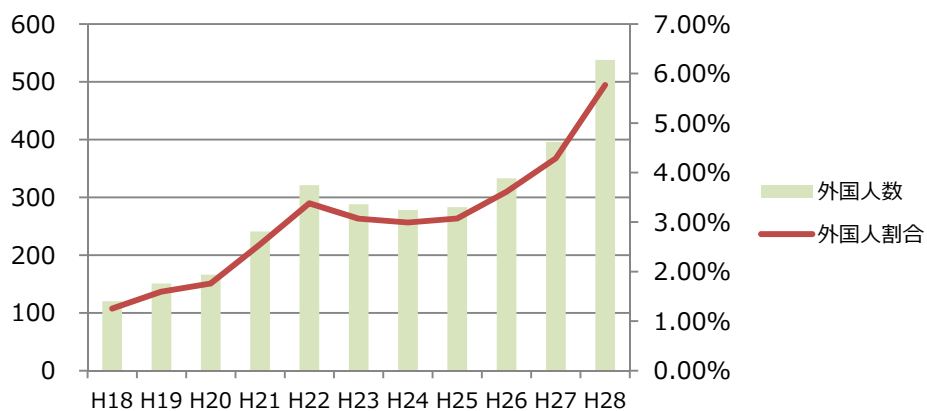


指標	現状値(H26)	目標値(H32)
人口 ＜白馬村総合戦略＞	9,120 人	9,000 人 (推計値+262 人)
人口の社会増数 (転入者－転出者)	111 人	111 人
地域おこし協力隊員数	3 人	10 人
移住定住イベント 出展・開催回数	0 回／年	2 回／年

多文化共生

増加する定住外国人と共生・共創するため、外国人住民との意見交換会を定期的に開催し、生活上の課題解決を図るとともに、定住外国人の地域参加・相互理解を促します。住民向けの情報提供に関して、英訳する媒体を増やすとともに、英語以外の言語への翻訳についても研究を進めることで、教育や福祉等の行政サービスが行き届くよう体制を整えます。(総務課)

外国人住民の数と割合の推移



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
外国人住民との 意見交換会開催回数	1 回／年	2 回／年

村外の白馬ファンの活用

村外に居住している白馬村出身者や縁故者、定期的に白馬を訪れる人や二地域居住者など、本村に想い入れのある人々を「ふるさと白馬応援し隊」の隊員として委嘱し、まちづくり活動や白馬村のPR活動を支援します。また、ふるさと白馬村を応援する寄附(個人・法人)により、重点事業の財源を確保するとともに、村の事業や特産品を広く伝えることで、白馬ファンの拡大にも努めます。(総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
ふるさと白馬応援し隊 隊員数	50 名	70 名
ふるさと白馬応援し隊 隊員主催イベント開催回数	—	1 回／年

安心・安全の生活を支える村づくり

防災・減災の強化

平成 26 年の長野県神城断層地震、平成 7 年の豪雨災害、昭和 56 年・平成 18 年の豪雪など、これまでに複数の災害に襲われている本村においては、位置・地勢・気候等を踏まえたうえで、多様な災害に備えることが求められています。特に長野県神城断層地震では、多くの家屋が倒壊する被害があったものの住民の助け合いや消防団の活動により死者を出さなかったことが大きく取り上げられました。日常的な付き合いから生まれるコミュニティの強さは、震災のみならず風水害や土砂災害など災害の種類にかかわらず減災の効果が期待されています。過去の災害の記憶を風化させず、消防団や自主防災組織の活動を支援することで、地域防災力の維持・強化を図ります。

地域支え合い支援

白馬村避難支援プランに基づく「災害時住民支え合いマップ」は、平成 26 年の長野県神城断層地震においても住民の共助を支えるツールとなりました。今後も各行政区の作成・更新を支援するとともに、地区サロン等の地域活動を推進し、有事の際に発揮される地域力を育みます。また、災害時に速やかな初期活動にあたるよう、関係団体等との体制づくりを進めます。(健康福祉課・総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
災害時住民支え合い マップ作成地区	17 地区	30 地区(全地区)

防災・災害情報の伝達

全国瞬時警報システム(J-ALERT)による初期情報の伝達に加え、避難施設や避難経路、災害状況等を多言語で住民・観光客に伝達する防災アプリを構築し、災害時の情報発信を強化します。また、「自らの身は自ら守る」という自助意識の向上も目的にハザードマップの作成と配布を行います。(総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
防災アプリ構築	0 件	1 件

消防団活動

住民の生命・財産を守る使命を果たすため、平常時から訓練・予防活動・防災意識啓発に努め、非常時には組織的な消防力を発揮できる消防団づくりを推進します。車両や設備・機器等の計画的な更新や自然水利の周知・管理に努めるとともに、消防団活動に対する住民・事業所の理解と協力を促進し、団員の確保や防火意識の普及・啓発に努めます。(総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
消防団協力事業所数	6 社	10 社
信州消防団員応援ショップ 登録店舗数	—	20 件

自主防災組織

避難訓練や初期消火訓練など各行政区の自主防災組織の防災・減災活動を支援し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助意識を高めることで地域防災力を強化します。(総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
自主防災組織設立地区数	26 地区	30 地区(全地区)

村全体の防災への取組み

白馬村の現状に合った地域防災計画への見直しを行うとともに、災害に備えて防災資機材と非常用食料の計画的備蓄を進めます。また、既存住宅の耐震化改修を補助するとともに、寄合所・避難所としての機能を強化するため、公共施設や各地域の公民館等の耐震性を確保します。雪崩防止に関して索道事業者等と協議しながら、スキー場の安全確保に努めます。(総務課・観光課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
地震総合防災訓練等 参加者数	120 名	240 名

治山治水

急傾斜地や土砂災害警戒区域の指定地を中心に治山・治水事業を進めながら、親水性を保ち自然景観に調和した改良を国や県に働きかけます。(建設課・農政課)

日常の住みよさの確保

平成 16 年に制定した「白馬村安全なまちづくり条例」や、平成 27 年に制定した「美しい村と快適な生活環境を守る条例」に基づき、誰もが他人を思いやり、快適で安心・安全な地域社会の実現を目指します。

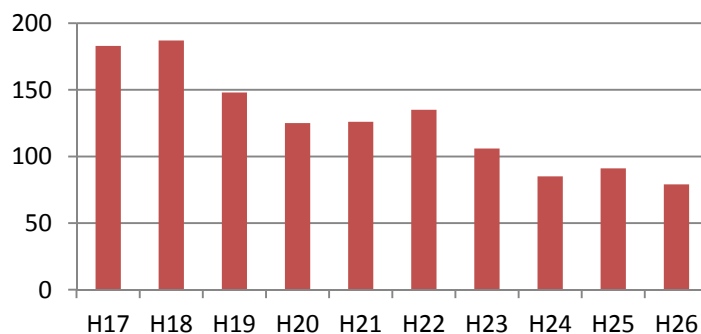
もてなしの村づくり

「美しい村と快適な生活環境を守る条例」の啓発に努め、「自分たちの村は自分たちの手で美しくすること」や「来訪者がうらやむライフスタイル・コミュニティ」を常に意識して、全ての人々が快適に過ごせる村づくりを目指します。(総務課)

地域防犯力の向上

各地域における自主的な防犯活動を支援して、住民の連帯意識を強化することで犯罪の抑止力を高めます。また、悪徳商法や振り込め詐欺等の被害防止や消費生活相談について、関係機関と連携しながら広報啓発活動等を行います。(総務課)

刑法犯罪発生数



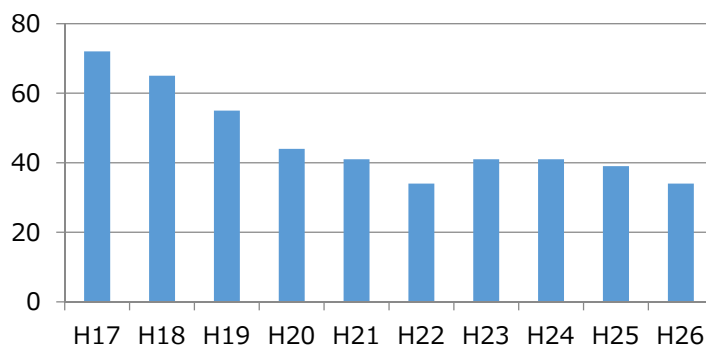
指標	現状値(H26)	目標値(H32)
刑法犯罪認知件数	79 件	50 件

交通安全の推進

警察署や交通安全協会、住民と協力しながら交通安全教室を開催するなど、交通安全意識の高揚に努めます。また、通学路の安全確保を進めるとともに、ガードレール・カーブミラー等の交通安全施設の適切な

維持管理や計画的な整備を進めます。円滑な除雪作業により冬期間の交通を確保します。(建設課・総務課)

交通事故発生件数の推移



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
交通事故発生件数	34 件	25 件

村内の移動手段の確保

現行のデマンド型乗合タクシーとナイトシャトルバスの運行を継続しながら、子どもや高齢者などの移動支援や観光客の二次交通を含めた村内の公共交通について、自動運転システム等の可能性も含めて交通事業者や関係団体と協議・研究し、高齢者や子どもの交通事故防止、環境保全、利便性向上を目指します。(総務課・健康福祉課・観光課・教育課)

生活と観光と医療のための道路整備

地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」の建設を推進するとともに、国道 148 号、国道 406 号、県道白馬美麻線、県道白馬岳線、県道千国北城線等の改良を国や県に働きかけます。また、優先度や緊急度を考慮したうえで、新規村道改良路線による基盤整備や、村道・林道・農道の計画的な改良・舗装及び橋梁等の点検・データベース化を進め、計画的に修繕を実施して長寿命化を図ります。(建設課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
インフラ長寿命化点検 実施済み橋梁・トンネル等	12 か所	113 か所

安全な住宅の提供

震災復興のための村営住宅を建設するとともに、既存の村営住宅の長寿命化を進めます。また、定住者への住宅施策として、民間の資金や活力の有効活用について検討します。(建設課・総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
村営住宅戸数	16 戸	34 戸
長寿命化が必要な 村営住宅戸数	16 戸	0 戸

まちづくりマスタープランによる土地利用計画

平成 15 年 3 月に策定された現在のマスタープランは、現状に合わせて内容を検討することが求められていますが、地域高規格道路のルートが与える生活への影響は少なくないことから、地域高規格道路のルート決定を待って見直しを行います。(建設課)

地籍調査の推進

早期完了を目指して地籍調査事業を推進し、適正な賦課徴収や境界紛争の防止、円滑な土地取引・相続に寄与するとともに、土地の有効活用を促進します。原則として第 6 次十箇年計画(平成 22 年～平成 31 年)に沿って事業を進めていきますが、過去の計画にとらわれることなく、地域等から地籍調査事業の要望があった場合は、柔軟に調査計画の見直しを検討していきます(農政課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
地籍調査済面積	7.65 km ²	8.48 km ²

支え合う福祉と健康の村づくり

子育て支援

生まれて良かった、育てて良かったと思えるような安心・安全の子育て環境づくりを進め、子育てにおける負担や不安を和らげることで少子化の進行を抑えるとともに、未来を創る地域の宝である子どもたちの健やかな育ちを地域全体で支援していきます。

白馬村子ども・子育て支援事業計画(平成 27 年度～平成 31 年度)

基本理念

子どもたちの幸せ育てる白馬村

基本的施策

- ・ すべての子どもが尊重され、健やかにより良く育つための「子どもの最善の利益」が実現されるよう配慮します。

- ・すべての親(保護者)が、子育てに喜びや生きがいを感じられ、安心して子育てができるような取組みを進めます。
- ・子育ての第一義的な責任は保護者にあるという基本的認識のもとに、家庭、学校、地域社会、企業、行政がそれぞれの役割のもとで協働して子ども・子育て支援を進めるための仕組みづくりを推進します。
- ・子育て世代の男性の長時間労働や出産に伴う女性の厳しい就労継続の現状を踏まえ、働く男女の職業生活と家庭生活との両立に向けた取組みを進めます。
- ・白馬村の恵まれた自然環境や社会資源を効果的に活用できるよう取組みます。

安全な妊娠・出産への支援

子どもの健やかな成長と父母に安心をもたらすケアなどの支援を行うとともに、経済的負担を軽減するために、妊婦・乳児一般健診の補助券発行や不妊治療費助成等を行い、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを行います。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
合計特殊出生率	1.19	1.30
妊婦基本健診受診率	97.1%	100%
不妊治療費助成件数	4 件／年	4 件／年

安心して産み育てることができる医療体制の維持・充実

大北圏域の出産環境の維持・充実に向けて周辺自治体と連携するとともに、平日夜間小児科・内科急病センターの医療体制を維持します。また、子どもの医療費負担軽減を図るため、高校卒業までを対象としている福祉医療給付を継続します。(健康福祉課・住民課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
平日夜間救急医療事業	1 か所	1 か所
大北圏域産科数	1 か所	1 か所

子育てに関する交流や相談の場づくり

子育て支援ルームのなかよし広場や自由利用等により、育児中の親子が安心して集える場所を提供します。子育て相談支援センターでは個別相談や療育の充実を図り、一人ひとりの力が発揮されるよう子どもの個性や特性を大切にしながら、健やかな成長を支援します。

また、ひとり親家庭の生活の安定と自立を促進し、子どもの福祉増進を図るため、児童扶養手当や福祉医療費等の給付のほか、相談体制を強化します。(健康福祉課・住民課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
“なかよし広場”利用者数	延べ 1,764 人／年	延べ 1,850 人／年
“自由利用”利用者数	延べ 1,119 人／年	延べ 1,200 人／年
子育て相談支援センター 相談件数	44 件	60 件

子育て家庭への経済的支援

多子世帯の保育料減免、児童手当・児童扶養手当の給付、インフルエンザワクチン助成、福祉医療費給付、私立幼稚園就園奨励補助制度等により、子育てに対する経済的支援を行うことで、子育て世代の経済的負担軽減を図り、少子化の進行を抑制します。また、ながの子育て家庭優待パスポート事業協賛店の拡充など、子どもと子育てを応援する地域づくりを進めます。(健康福祉課・住民課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
小児インフルエンザ ワクチン助成	—	985 件
ながの子育て家庭優待 パスポート事業協賛店舗数	20 店舗	24 店舗

子育てと仕事の両立支援

保育園や子育て支援ルーム、放課後児童クラブの充実、白馬幼稚園との連携により、仕事を持つ親が安心して働ける支援体制を整備します。また、短時間や緊急時に活用できるファミリーサポート制度の活用も含め、病児・病後児保育への対応を進めます。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
休日保育利用者数	213 人	250 人
放課後児童クラブ利用者数	351 人	470 人

障がい児支援

乳幼児健診スクリーニング等により障がいの早期発見・早期対応に努め、各専門家の相談・支援体制により子ども一人ひとりの個性や特性を大切にしながら、0～18 歳までの成長を切れ目なく適切に支援します。また、障がい児家族の交流や日中一時支援・放課後等デイサービス・通所訓練等の充実を図ります。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
自立支援給付 利用件数	90 件	100 件

障がい者支援

障がいのある人の高齢化、重度化、多様化に対応しながらそれぞれの自立や社会参加を促し、誰もが地域でいきいきと安心して暮らすための総合的な支援の充実を図ります。

白馬村障害者・白馬村障害福祉計画(平成 28 年度～平成 29 年度)

基本理念

地域でいきいきと安心して暮らせる自立と共生のまちづくり

- ・ 障がいの有無にかかわらず、主体性、自立性を持って社会に参加し、一人の個人として人格と個性が尊重され、誇りを持って暮らしていくことができる。
- ・ 自分らしく生きていくために必要な支援を、地域全体の理解・協力のもと受けることができる。

基本的視点

- ・ 地域における自立生活の支援
- ・ 社会参加の促進と就労支援
- ・ 人にやさしいまちづくり

地域における自立生活の支援

障がい者やその家族が住み慣れた地域で自立した生活を送るために、日中活動の場やグループホーム等の支援サービスの充実、ライフステージに応じた適切な相談支援、関係機関やボランティア、相談支援事業所、地域移行コーディネーターとの連携強化に努めます。また、公的年金制度や各種手当等の生活安定制度に関する周知・広報の強化、健診等による健康づくり、療育支援、地域の見守り支援体制の整備を進めます。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
障害福祉サービス利用	40 人	55 人
共同生活援護支給決定	7 人	17 人
地域移行支援利用者	0 人	1 人
日常生活支援用具給付	延 160 件	延 180 件
日中一時支援事業	延 209 件	延 300 件

社会参加の促進と就労支援

地域行事やレクリエーション、文化活動等に障がい者が気軽に参加しやすい環境をつくります。また、障害者雇用促進法に基づき、大北障害保健福祉圏域自立支援協議会、大北圏域障害者総合支援センター「スクラム・ネット」、ハローワーク等の関係機関と連携し、企業・雇用先に対して法廷雇用率の達成への理解と協力要請を行います。また、障害者優先調達推進法に基づき、調達のメニュー充実により施設就労者、在宅就業者の自立促進を図ります。（健康福祉課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
村内の法定雇用率 達成企業数	0 社	1 社
障害者優先調達推進法 調達実績	360,960 円	400,000 円

権利擁護の体制づくり

障害者差別解消法、障害者虐待防止法に基づき、障がい者の人権尊重に関する啓発活動を行うとともに、判断能力が不十分な人の権利や生活を守るため、広域連携により成年後見支援センターの活用、成年後見制度利用支援事業による負担の軽減により、適切な相談・支援体制を築きます。（健康福祉課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
成年後見制度 利用支援事業	0 件	1 件

人にやさしいまちづくりの推進

ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備、障がい者の生活基盤である住宅改修補助の推進、情報支援体制の充実により、公共施設・住宅・移動・情報など、様々な面で人にやさしいまちづくりを実現します。（健康福祉課・建設課・総務課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
居宅生活動作 補助用具支給	1 件	3 件
地域福祉総合助成事業 住宅改修	2 件	3 件
意思疎通支援事業 (通訳者派遣)	10 回	17 回

高齢者福祉

高齢者一人ひとりが、可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう、地域全体で住民同士が支え合い、住民と行政の協働による地域福祉の村づくりを進めます。

白馬村高齢者福祉計画「いきいきプラン長寿白馬 21」(平成 27 年度～平成 29 年度)

基本理念

認め合い ともに支え合う あたたかい村づくり

基本目標

- ・ 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるしくみ
- ・ 健康で生きがいをもって暮らせるしくみ
- ・ 誇りを持って暮らし続けるしくみ
- ・ 介護保険制度の適切な運営

地域包括ケアシステムの構築

介護予防事業による生活機能の維持・向上、地域ケア会議による問題の把握・解決、訪問介護・訪問看護等の在宅医療の充実により、在宅生活を支援します。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
介護予防取組みグループ数	19 グループ	24 グループ
介護予防事業参加者数	延 5,839 人／年	延 7,000 人／年
地域ケア会議開催回数	6 回／年	6 回／年

生活支援サービスの体制整備

介護保険制度による事業者と連携し、地域での生活を継続できるよう生活支援サービスの体制整備を図ります。また、高齢者が必要とする支援内容を調査しながら、現行のファミリーサポートやシルバー人材センター等の制度に加え、行政区単位でのボランティアとのマッチングや、生活支援コーディネーターの設置を検討します。乗合タクシーについては、利用者アンケートを実施し、運行計画の見直し等利便性の向上に努めます。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
配食サービス食数	1,693 食／年	2,000 食／年
乗合タクシー利用者数	7,729 人／年	8,100 人／年

高齢者の生きがいづくり

それぞれのライフスタイルに合った生きがいを持ちながら活動できるように、「やる事」、「行く場所」、「なじみの人」、「役割」など、地域での社会参加のきっかけづくりを支援します。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
白馬シニアクラブ会員数	964 人	1,000 人
シルバー人材センター 登録者数	639 人	700 人

認知症対策・権利擁護の推進

増加が見込まれる認知症の方と家族が安心して地域で暮らし続けられるよう、相談体制の充実や居場所づくりを推進します。また、認知症や高齢者虐待に関する啓発や研修等を実施し、地域全体での理解と関心を深めます。(健康福祉課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
認知症サポーター数	638 人	1,000 人

健康づくりと地域医療の充実

子どもから大人まで住民みんなが健康で笑顔で暮らせる村を目指します。また、自然の恵みや生産に携わる人々に感謝するとともに、先人の知恵を大切にしながら郷土愛を育み、白馬の食文化を次世代に継承していきます。

白馬村健康増進計画「元気プラン健やか白馬 21」(平成 26 年度～平成 35 年度)

基本的な方向

乳幼児から高齢者まで～ライフステージに応じた計画を考える

- ・ 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- ・ 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
- ・ 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
- ・ 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、喫煙、飲酒及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

白馬村食育推進計画(平成 24 年度～平成 28 年度)

基本理念

豊かな自然と農ある暮らしに感謝し、健やかな心と体を育み、笑顔かがやき、未来をつなぐ食文化のむら

基本目標

- ・ 規則正しい生活リズムと望ましい食習慣づくり
- ・ 地産地消をすすめる体制づくりと、白馬ならではの食づくり
- ・ 食を通じた健やかで心豊かな人づくり

生活習慣病予防の推進

特定健診のリピーター増加や未受診者の受診を促す取り組みを推進することで受診率の向上を図り、疾病の早期発見・早期指導につなげます。糖尿病有病者の増加の抑制、脂質異常症の減少、高血圧の改善を図り、生活習慣病の重症化を予防します。（健康福祉課・住民課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
特定健診受診率	47.1%	60.0%
特定保健指導率	73.3%	75.0%

食育の推進

家庭や保育園・幼稚園・各学校と連携しながら食に関する知識や適切な判断力を養い、望ましい食習慣づくりに取り組みます。また、ボランティア団体等とも連携して、本村の豊かな自然・風土に育まれた四季折々の新鮮な地場産食材の活用や、地域の行事食や伝統料理の継承などを通じて、地産地消を推進します。（健康福祉課・教育課・農政課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
食育ボランティア登録者数	22 人	30 人

地域医療体制の確保

平日・休日にかかわらず住民が安心して医療が受けられるよう、歯科や薬局も含めた地域医療体制を確保します。また、平日夜間急病センター（小児科・内科）や冬季のスキー傷害診療を継続するとともに、耳鼻科や眼科等の地域に不足している診療科目についても関係医療機関に対して設置を働きかけます。村内及び大北圏域よりもさらに広域的な視野で二次救急医療についても充実を図ります。（健康福祉課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
平日夜間救急医療事業	実施日数 289 日 患者数 522 件	維持

在宅当番医制事業 実施日数	285 日 (内科 3・外科 1)	維持
在宅歯科当番医事業 実施日数	75 日	維持
スキー傷害診療	実施日数 42 日 患者数 1,274 件	維持

自立的・効率的で健全な行財政の村づくり

情報通信技術の活用

情報通信技術 (ICT) の著しい発展と普及は社会や生活環境に大きな変化をもたらしています。村づくりにおいても、福祉、教育、防災、産業、環境など様々な面で活用の可能性があることから、セキュリティ対策を講じながら情報リテラシーの向上を促進し、住民の利便性向上や効率的な行政運営に資する活用を進めます。

個人番号カードの普及及び活用による住民サービス向上

個人番号カードを活用した証明書等のコンビニ交付サービスの実施を検討し、個人番号カードの普及促進を図ります。(住民課)

指標	現状値 (H26)	目標値 (H32)
個人番号カード交付率	—	20%

広域ネットワークの構築

大町市と接続する光回線を敷設し、広域ネットワークを構築することで、各種システムの共同化による業務効率化を図ります。(総務課)

情報通信環境の整備・活用

村内全域に敷設した光ケーブルやケーブルテレビ白馬の放送設備を計画的に更新し、インターネットを活用したまちづくりを推進します。(総務課)

行財政改革の推進

地方分権化の進行に対応し、社会情勢や地域性に合った組織機構のあり方を常に検討するとともに、中長期的な視点に立って効率的で健全な行財政運営に努めます。PDCA サイクルにより事業の効果や優先度を検討しながら、住民に信頼される組織づくりを目指します。

魅力ある人材の確保と計画的・効果的な職員研修

人材育成においては、採用の時点で、資質の優れた者をいかに確保するかということが重要であることから、本村が求める職員像としての資質を見極め、行政需要の複雑化・高度化に対応できる人材を確保できるよう、試験制度にも改善を加えながら積極的な採用活動を実施します。

職員研修は、個々の能力開発を踏まえた人材育成の一環であるという観点に立ち、各階層に求められる役割と資質を踏まえた研修を実施します。また、大北圏域内の市町村職員が連携し互いに能力の向上を図るため、研修会の相互乗り入れなど、広域的な取り組みを推進します。（総務課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
長野県市町村職員研修センターが開催する研修の受講者数	32 人	60 人
大北圏域で相互乗入できる研修の実施回数	—	15 回

財政計画の策定と財政状況の分析

限られた財源を活かしつつ、多様化する住民要望に応えるために、事業の重点化や順序化を図りながら、実施計画策定に合わせて将来を見据えた財政計画を策定します。

固定資産台帳の整備及び新公会計システムを導入し、財政状況を適正に把握・財政分析します。（総務課）

財政健全化

健全化判断比率を適正数値に保ち、健全な財政運営を継続していきます。（総務課・税務課）

<歳入>

村税の適正な課税や受益者負担の適正化、不要な公有財産の売却などに努めるとともに、コンビニ収納の導入やクレジット収納の拡充など社会環境や生活スタイルに見合った納付方法の多様化や徴収対策の強化を図り、税・料金などの収納率の向上を図ります。

国・県・民間の補助金や交付金、ふるさと納税制度を活用した寄附金等の外部資金を効果的に活用します。また、インターネットオークション等を活用した公有財産の売却や、Web サイト・広報紙・封筒等への広告掲載により自主財源の確保に努めます。

<歳出>

業務の見直しや合理化により経費削減に努めるとともに、実施計画などを基に事業の優先順位を明確にし、費用対効果などにより事業を見直します。

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
実質公債費比率 (収入に対する借金返済額の割合 早期健全化基準 25%)	11.8%	12.0%未満
将来負担比率 (年間収入に対する将来的に負担 する可能性のある借金の総額の 割合。早期健全化基準 350%)	22.9%	30.0%未満

公有財産管理

公共施設等総合管理計画を策定し、その計画に基づく施設の適正配置や活用、長寿命化・効率化・維持管理コストの削減・指定管理者制度の活用・施設の統廃合などによる総合的かつ計画的な施設管理を推進します。公有財産(土地・建物)の売却や譲渡・貸付などによる未利用財産の活用や処分を進めます。(総務課)

産業 新しい仕事をつくりだす村

「世界水準」を意識した観光の村づくり

競争力と持続可能性を高める観光地経営

白馬村観光局、白馬村振興公社、各地区の観光協会や観光事業者と連携しながら、「自分たちの生活の場として次世代に自信を持って引き継ぐことのできる白馬村」、「高い誇りを持って世界中から来訪者を迎えることのできる白馬村」を実現します。また、自然環境や多様なアクティビティに加え、国際観光地である白馬の「豊かな暮らし」を積極的に発信することで、国内外から人々を呼び込みます。

白馬村観光地経営計画

基本理念

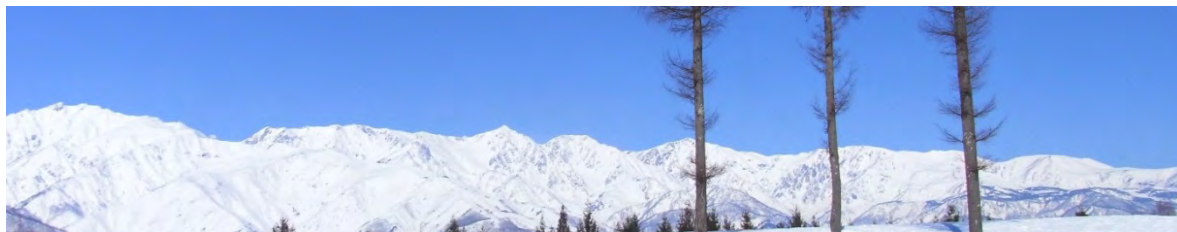
恵まれた自然、山と雪が育む生活・文化を未来に残す マウンテンリゾート・Hakuba

基本方針

- ・白馬村全体、さらには他地域との広域連携により観光の効果の最大化を視野にいれ、産業間・地区間・取組主体間の連携を進めます。
- ・白馬連峰を核に、地域に根差した自然・歴史・文化の多面的な活用と、それらを支える人材の育成・活用を進めます。
- ・「スキー目的＋グリーンシーズン周遊」型から「オールシーズン×滞在」型への転換を図ります。
- ・客観的な数値データによる現況の把握と成果の評価、検証に取り組みます。

白馬連峰への眺望の魅力最大化

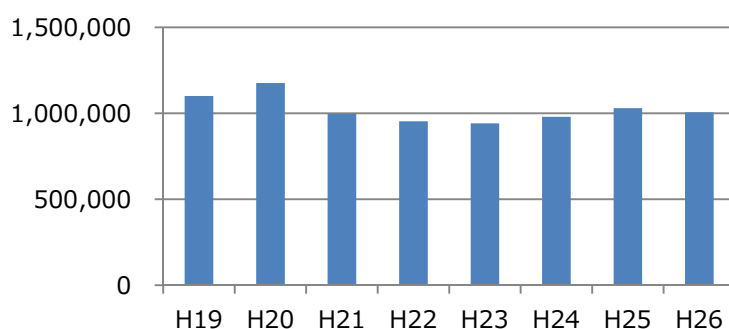
白馬駅前やサンサンパーク白馬周辺など白馬連峰への眺望が得られる象徴的なエリアについて、景観を生かした滞在空間の魅力向上を図ります。（観光課・建設課・総務課）



核となるスキー場と宿泊拠点の再生

宿泊施設とスキー場が一体となった地区について戦略的な将来ビジョンを検討し、宿泊施設とスキー場のサービス共通化による効率化や競争力強化を図り、利用者の利便性を高めます。また、宿泊環境の整備として、サービスの質や収容力の向上を目指します。（観光課）

スキー観光客数の推移



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
ウィンターシーズン観光客 入込数(12月～3月)	111万人／年	130万人／年

国際リゾートに相応しい受入環境整備

「世界水準」を意識した国際リゾートとして、国内外からの来訪者が安心して訪れることができる環境整備を推進します。HAKUBA VALLEY 共通ゲートシステムの利用拡大、公衆無線 LAN の整備、一目でわかるシャトルバスの運行、冬場のタクシー不足解消、案内看板の多言語化・統一化、インバウンド受入サポート体制整備等を進めます。(観光課・総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
HAKUBA VALLEY Free Wi-Fi 整備箇所	0 か所	8 か所

魅力の多様化に向けたコンテンツ創出

降雪量など気象条件や世界経済など社会条件のリスク回避も考慮し、来訪時期や来訪形態の多様化を図ります。夏季・冬季それぞれ屋内外でのアクティビティを積極的に展開するとともに、オリンピック開催経験に裏付けされたブランドイメージを活かしたスポーツ関連プログラムや、地元食文化と温泉を組み合わせた魅力を強化し、歴史・文化・芸術系の資源を観光に活用することで、雨天時も多様な楽しみ方ができる村づくりを進めます。また、地元食材と観光施設が経済的・有機的に流通するシステムを構築します。(観光課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
グリーンシーズン観光客 入込数(4月～11月)	113万人／年	120万人／年

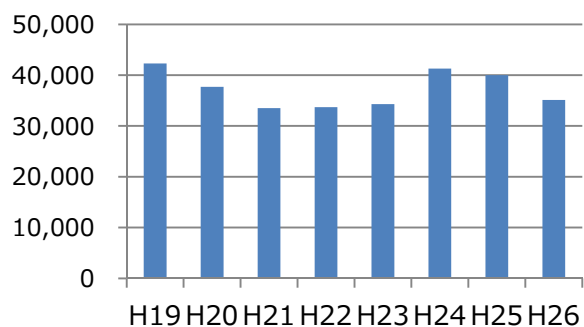
観光業の活性化・平準化による安定的な雇用創出

環境整備や情報発信による観光産業の活性化とともに、夏・冬と春・秋の季節変動を平準化することで、通年で安定した雇用の創出を図ります。（観光課）

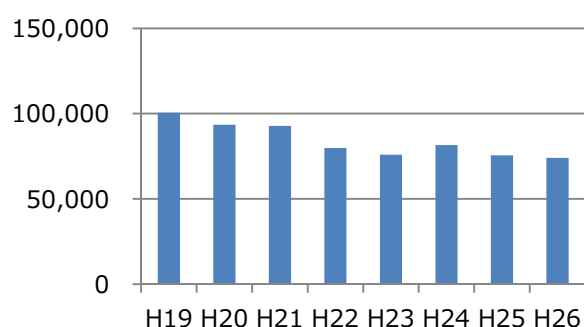
地域特性を活かしたスポーツツーリズムの推進

山岳環境やオリンピック施設等を活用しながら、スポーツ合宿の誘致や村外者を対象としたスポーツイベントを開催することで、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を目指します。（観光課・スポーツ課）

登山観光



ジャンプ競技場リフト乗車人数の推移

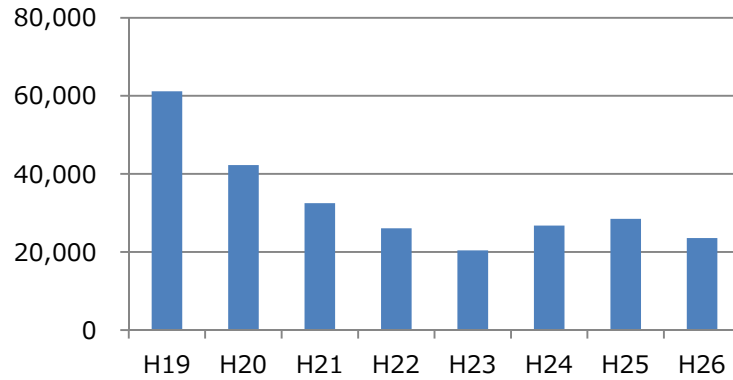


指標	現状値(H26)	目標値(H32)
スポーツ観光客数 (スキー観光＋山岳観光)	1,015 千人	1,136 千人以上
白馬ジャンプ競技場 リフト乗車人数	74,061 人	83,000 人以上
白馬スノーハープ クロスカントリー大会 出場者数	2,121 人	2,300 人以上
FIS サマーグランプリ ジャンプ白馬大会 来場者数	6,580 人	7,300 人以上
スノーハープを活用した マウンテンバイク大会 参加者数	280 人	310 人

観光施設の維持管理

グリーンスポーツの森、山小屋、登山道、塩の道、きこりの道等の観光施設を適正に維持管理し、安全で快適に利用できる環境を整えます。（観光課・スポーツ課）

グリーンスポーツの森利用者数



広域観光の取り組み

長野県が目指す「世界水準の滞在型観光地づくり構想」の重点支援地域として、大町市・小谷村との「北アルプス三市村観光連絡会」によるシャトルバスの運行やプロモーション、エリアブランディング等を推進し、他地域との差別化・差異化を図ることでエリアのファン獲得を目指し、広域的な観光施策を展開します。（観光課）

農地と森を守り地産を活かす村づくり

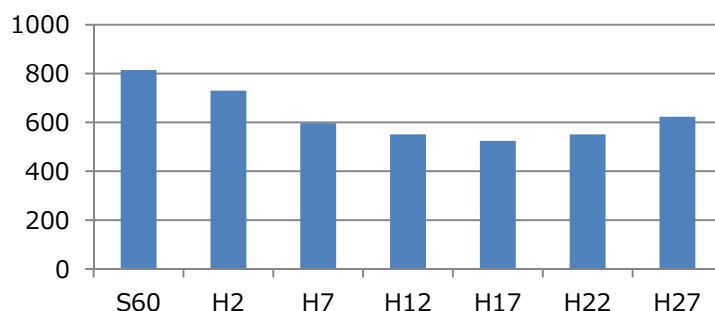
優良農地の保全

農業従事者の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加を抑止するため農家を支援するとともに、農地の生産効率を高めるために、ほ場整備を推進し、農産物等の生産に加え、自然環境の保全や景観の形成、水源の涵養や災害の予防など多面的な機能の保持に努めます。

里山環境の保全

山岳景観の麓に広がる田園風景は白馬村の特徴として大切に守っていく必要があります。農業振興地域総合整備計画を見直すとともに、多面的機能支払交付金等を活用することで優良農地の保全や耕作放棄地の減少に努め、農山村集落の田園風景を守ります。（農政課）

経営土地面積の推移



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
耕作放棄地	15.8ha	10ha
多面的機能支払交付金 取組面積(農地維持)	404.64ha	410ha

農業施設の維持管理

農業生産性の向上のため、既存の水路、頭首工、農道等の施設を適正に維持管理し、必要に応じ、改修等を行います。そのために、施設整備の取組みである多面的機能支払交付金事業(長寿命化)を活用します。(農政課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
多面的機能支払交付金 対象面積(長寿命化)	315.09ha	400ha

ほ場整備の推進

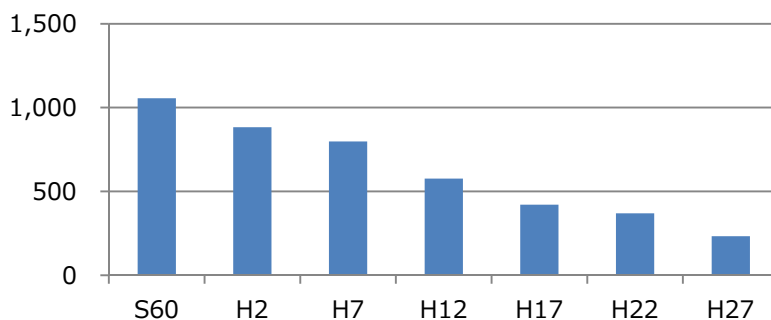
担い手農家や地主から要望のある地域について、ほ場整備を推進することで農地を集積し、農地の生産効率向上や耕作放棄地の減少に努めます。(農政課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
新規地区(北城)	—	30ha

認定農業者への支援

今後の村の農業を支えていく認定農家への支援に努めます。平成30年度に予定されている米政策の転換に際し、国の動向を注視し、農家への的確な情報提供に努め、農家支援を行っていきます。(農政課)

販売農家数の推移



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
農業機械等導入補助	—	累計 30 件
認定農業者への 農地利用集積	359ha	400ha
認定農業者数	24 人	28 人

就農体験の機会づくり

ふれあい農園(アグリスクール)や市民農園の貸出し等により就農の機会を設け、自家用野菜の栽培や直売所等での販売のきっかけを作ることで、農業後継者の育成を図ります。(農政課)

有害鳥獣対策

有害鳥獣との境界確保のため、里山や農地の草刈りを行うとともに、電気柵の設置や鳥獣駆除により農作物への被害防止に努めます。(農政課)



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
農産物被害額	104 万 8 千円	78 万円

農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進

白馬産米は、個々の農家の努力により、評価が高まりつつあります。食味コンテストでの上位入賞やふるさと納税寄附者からの高い評価を踏まえ、ブランド化に向けて村基準による「おいしい米づくり」に試験的に取り組み、白馬産米の美味しさを村内外に発信します。米以外の作物については、これまでに紫米やそば、大豆の特産品化を推進してきました。また、特産品づくりに関心のある団体等を支援し、ブルーベリー、食用ほおずき、陸わさび、トマト等の栽培・販売を推進しています。これらの事業により農地の荒廃化防止や農業所得の向上にもつなげるとともに、観光と農業の連携によるグリーンシーズンの魅力を創出することで地域振興を図ります。

米の品質向上・ブランド化

白馬産米の品質向上を図り、ブランド化することで農業所得の向上を図ります。（農政課）



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
白馬産ブランド米 生産農家数	—	10 者

特産品の生産・販売強化

紫米の消費量・出荷量の向上を図るとともに、ブルーベリー・食用ほおずき・陸わさび・トマト等の生産を拡大し、特産品開発や6次産業に取り組む団体を支援します。（農政課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
紫米消費量	6t／年	8t／年
特産品栽培面積	7ha	10ha



地産地消の推進

新鮮な地場産品を提供する直売所の充実に努めるとともに、地産地消認定制度（仮称）を創設し、地場産品を村内で提供している観光・宿泊施設等を支援します。（農政課）

指標	現状値（H26）	目標値（H32）
地場産品売上高	2,041 万円	2,500 万円
地産地消認定者	—	25 者

道の駅建設と地域経済循環システムの構築

総合観光情報発信基地としての役割に加え、特産品・農産物・林産物の集中管理機能を持たせた地域循環経済の中心的機能を備える道の駅の建設を進めます。（農政課・観光課・総務課・建設課）

指標	現状値（H26）	目標値（H32）
新しい道の駅	—	1

森林の整備と活用

中信森林管理署、長野県、白馬村、森林所有者、森林組合等林業関係者及び木材産業関係者の間で相互に合意形成を図りつつ、地域一体となって森林の集約化を進めるとともに、集約化した森林において森林経営計画を立てたうえで持続的な森林経営を推進します。また、林業従事者及び後継者の育成・確保、作業路網の整備など林業関係者等が一体となって、長期目標に立った諸施策を計画的に実行します。

白馬村森林整備計画（平成 28 年度～平成 38 年度）

森林整備地域活動支援

間伐や除伐、下草刈り等の森林整備事業を推進し、森林を保全しながら有害鳥獣による被害を抑止するとともに、美しい景観で訪れる人々をもてなします。（農政課）



指標	現状値（H26）	目標値（H32）
森林整備面積 （公共造林事業）	5.1ha	60ha

森林資源とふれあう機会の創出

住民参加による森林整備を進めるとともに、既存の「白馬きこりの道」等の活用や、子ども向けの自然体験教室の開催等により、住民や観光客が森林資源に親しむ機会を設けます。また、利用されていない里道を調査し、観光資源としての活用について研究します。（農政課・観光課）

商工業の振興により雇用を生みだす村づくり

商工振興・創業支援

近年増加している外国人の移住者や旅行者により需要が高まる外食産業や、豊かな自然環境を活かし多様化するアウトドアレジャー産業など事業化の機会が増えつつある状況に対し、白馬商工会と連携して創業支援や融資制度の拡充に取り組めます。

商工振興

設備投資等に要する資金の利子補給を実施します。（観光課）

指標	現状値（H26）	目標値（H32）
小規模事業者経営改善 資金利子補給補助金額	108 万円	162 万円

創業支援と空き店舗活用、後継者育成支援

商工会と連携して創業支援を行うことで新たな雇用の受け皿をつくるとともに、空き店舗の調査・台帳整備を行い、新規創業者への空き店舗斡旋や後継者育成へつなげる支援を実施します。（観光課）

指標	現状値（H26）	目標値（H32）
空き店舗の斡旋と活用	—	5 件
創業支援者数	3 人	累計 10 人

新しいしごとの創出

恵まれた自然環境や山岳景観、避暑地としての優位性を活かし、インターネット環境があれば場所に捉われず仕事ができる ICT 等の業種を中心に、サテライトオフィスやコワーキングスペース等の働く環境を整

備することで、通年で安定して働けるしごとをつくります。また、自宅やコワーキングスペースなど職場以外の場所で働く「テレワーク」や、同時に複数の仕事に携わる「マルチワーク(多業)」をしやすい環境について研究します。(総務課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
サテライトオフィス企業数	—	1

民間活力を活かす村づくり

産官学金労言連携

大学や企業等との連携により、観光・福祉・教育・農業・環境・防災・人材育成など、様々な分野でまちづくりを協働で推進します。

大学・企業等との連携

既に連携協定を締結している大学や企業との連携事業について推進・見直しを図るとともに、新たな連携先も模索し、先進的な暮らし方やまちづくりを目指します。(総務課・観光課・健康福祉課・農政課・教育課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
連携協定に基づき 進行中の事業	—	5 事業

ひと 一人ひとりが成長し活躍できる村

学びあい育てあう村づくり

次代を担う子どもたちの学習支援

国際化する社会に生きる子どもたちが、白馬の自然と風土の中で人間性豊かに成長し、個性と創造性を伸ばしながら社会の変化に主体的に対応して未来を切り開く力を育めるよう、家庭・学校・地域がそれぞれの役割のもとに相互に連携・協力する環境をつくります。

白馬村教育大綱(平成 27 年度～平成 31 年度)

基本目標

- ・人権教育の推進
- ・個性と創造性を伸ばす教育の推進
- ・家庭、学校、地域の連携体制づくりの推進
- ・あらゆる機会に学習できる社会の実現の推進
- ・多様な文化交流活動の推進

「自ら学び、自ら考える力」と「生きる力」の育成

確かな学力として知識や技能の習得とともに、思考力、判断力などを重視し、社会において必要となる力を身につけることができる環境をつくります。小中学校間の連携を強化し、学力向上対策委員会における横断的・具体的な検討を行いながら、協同的・対話的な学びを充実させるとともに、教育相談や就学相談などの支援体制を整え、各学校における学校目標が達成できるよう支援します。また、時代に即した学習環境として、タブレット端末や電子黒板、実物投影機などの ICT 機器を計画的に導入・更新するとともに、ネットワーク環境を整備しながら必要な教育コンテンツを導入することで ICT 教育を推進します。(教育課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
中学校情報端末 活用生徒数	0 人	延べ 900 人
小学校情報端末 活用児童数	0 人	延べ 690 人

地域に開かれた学校づくり

信州型コミュニティスクールの小中学校への導入により、保護者や住民の学校運営への参画を進め、地域に開かれた学校づくりを実現します。子どもたちの健やかな成長を社会全体で支える観点から、家庭・地

域の教育力向上を支援し、学校との連携と協力を推進します。英語力の向上や郷土の魅力を知るための地域学習などの各学校の取組みを支援します。また、地域で見守る防犯、交通安全体制により子どもたちの安全を確保します。(教育課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
信州型コミュニティスクール* 設置校数	0校	3校

*学校の運営、支援、評価に地域がボランティア活動などを通じて参加する仕組みを持った学校

安心・安全な学習環境づくり

計画的に小中学校の建物耐震化、設備更新や防災・防犯対策等を進め、学校の安全確保を進めます。

新しい共同調理場の建設に向けて住民と連携し事業を進めるとともに、安心・安全な学校給食提供し、生きた教材として活用できる施設として食育の推進を図ります。(教育課)

地域を担う人材の育成

「白馬高校の経営・運営に参加する地域案」に基づき、小谷村と共同で白馬高校に積極的に支援を行います。また、公営塾や職業体験、英語学習などを通じ、国際山岳観光地である本村を担う人材の育成を目指します。(教育課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
しろうま學舎塾生数	一人	60人

生涯学習と青少年育成

幅広い年代において、生きがいづくりや生活の質の向上のために学び続けることができる環境づくりを推進します。各種講座や活動により住民の交流を促進するとともに、「知」の拠点となる図書館施設の整備を進めます。

限らない向上心を支える生涯学習

公民館が地域コミュニティの核となり、生涯学習と地域学習を推進できるよう分館活動を支援するとともに、住民のニーズや地域の実情に応じた多様な学習機会を提供します。また、生涯学習の発表の場として文化祭を開催します。(教育課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
平均講座受講者数	15 人	22 人

図書館の充実

住民の暮らしと文化振興の活力となるよう、公共図書館の運営を充実させるとともに、地域おこしやまちづくり、人づくりに役立つ魅力ある図書館を目指します。また、図書館としての機能・役割を充足できる施設とは言いがたい現在の図書館について、スペースの面でも限界であることから、収納スペースの見直しを行うとともに、施設の増改築や新図書館の建設について調査・検討を行います。

白馬村図書館基本計画(平成 28 年度～平成 32 年度)

運営理念

村民のくらしを支援し、まちづくりに役立つ図書館を目指します

運営方針

- ・ 子どもたちの成長に役立つ図書館
- ・ 人づくりに役立つ図書館
- ・ 暮らしに役立つ図書館
- ・ 地域おこし、まちづくりに役立つ図書館
- ・ 文化振興に役立つ図書館

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
図書館来場者数	延べ 12,800 人／年	延べ 25,000 人／年

人権教育の推進

あらゆる偏見や差別をなくし、全ての住民が自他の人権について考え、責任を自覚し、ルールを守り、安心して学校や社会で生活できるよう、学習機会を充実させることで人権教育を推進します。(教育課・住民課)

青少年健全育成事業の推進

青少年を取り巻く状況の厳しさを踏まえ、白馬村青少年健全育成村民会議等と連携し、安全でよりよい社会環境を確保するためのパトロールや啓発事業を中心に青少年健全育成に関する取り組みを推進します。また、各行政区の子ども会育成会との連携により、子ども会行事を実施することで、子ども同士で助け合い健全な心を育てる交流の機会をつくります。(教育課)

文化・芸術の振興

文化活動の活性化は、住民の生活に潤いを与え、豊かな心を育てます。社会文化振興団体の活動支援を行うとともに、ウイング 21 ホールを中心とした芸術鑑賞会等を実施し、既存の施設を活用した展示会を開催するなど文化・芸術に触れる機会を提供します。

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
コンサート等の実施 における入場者数	延べ 340 人／年	500 人／年

生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり

スポーツによる健康づくりと活力の創造

住民の健康維持や増進、体力の維持や向上を図り、白馬村体育協会や白馬村総合型地域スポーツクラブのほか、観光・教育部門とも連携しながら、村民一人ひとりが生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境を整備します。

白馬村スポーツ推進計画(平成 27 年度～平成 31 年度)

基本理念

スポーツの力で未来を拓く ～スポーツを通じて、白馬の活力と、村民の健康を願って～

基本方針

- ・スポーツによる健康増進
- ・子どもが日常的に楽しくスポーツに取り組むことができる環境づくり
- ・スポーツ競技者の競技力向上
- ・地域の特性を活かしたスポーツ環境の整備
- ・スポーツ施設の整備及び充実

スポーツによる健康増進

幼少期から成人まで住民の誰もが生涯を通じてスポーツに親しむよう、スポーツイベントやスポーツ教室の開催を推進します。特に初心者や未経験者、高齢者や障がい者が気軽に参加できる機会をつくるとともに、スポーツを通じたコミュニティづくりを推進します。(スポーツ課)

指標	現状値(H25)	目標値(H32)
----	----------	----------

週1日スポーツをする人の割合	40.0%	46.0%以上
白馬村体育協会・白馬村総合型地域スポーツクラブ主催教室の参加者数	4,166 人	4,700 人以上

子どもが日常的に楽しくスポーツに取り組むことができる環境づくり

生涯にわたって健康で豊かな生活を送れるよう、幼少期から「運動あそびプログラム」等を取り入れ、スポーツの習慣化を図るとともに、体力づくりの基礎を養う環境を整備します。子どものスポーツ活動の充実として、村内の保育園・幼稚園・小中学校や関係団体と連携したスポーツ機会の提供に取り組むとともに、子どもの体力向上の推進として、村内の小中学校への体力づくり支援や保護者への研修会等を開催します。（スポーツ課）

指標	現状値(H25)	目標値(H32)
子どものスポーツ実施率	中学生 73.0%	中学生 83.0%以上
	小学生 67.8%	小学生 77.0%以上

スポーツ競技者の競技力向上

住民の協力を得ながら継続的な指導者の確保に努め、選手のレベルに応じた指導体制を確立し、全国や世界で活躍できるトップレベルの競技者の育成を目指します。指導者の育成及び支援として、研修会や指導者間ミーティングを開催するほか、白馬村体育協会や白馬村スキークラブへの支援、競技会の開催や誘致、本村出身のトップ選手による指導環境の構築等を進めます。（スポーツ課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
白馬村スポーツ功労賞等 受賞者数	22 人	25 人
白馬村スポーツ少年団 登録者数	362 人	410 人以上
白馬村体育協会 加盟団体登録者数	1,149 人	1,280 人以上
白馬村スキークラブ 競技登録者数	62 人	70 人以上
白馬村総合型地域 スポーツクラブ登録者数	209 人	230 人以上

スポーツ施設の整備及び充実

ナショナルトレーニングセンターに指定されたクロスカントリー競技場「スノーハープ」やジャンプ競技場、ウイング 21 等のオリンピック施設や他の公共スポーツ施設について、計画的な修繕や更新を検討します。また、利用者のルールを徹底し、施設の適正かつ有効な利用を図りながら、村内外の利用者のニーズに応えます。（スポーツ課）

指標	現状値（H26）	目標値（H32）
社会体育施設等 利用者数	86,935 人	96,000 人以上
ウイング 21 利用者数	53,946 人	60,400 人以上
クロスカントリー競技場 利用者数	12,121 人	13,500 人以上

一人ひとりに活躍の場がある村づくり

人のつながりによる活力の創出

本村は移住者や交流人口が多い状況にありながら、それらの人が集う場が少なく、村内外の若者交流の場が求められています。多様な人が交流する場を設けることで個々の知識や技能を繋ぎ合わせ、地域の活力を創出します。

多様な人々が交流する機会の創出

住民や村外の人々が気軽に集いつながれる場所やきっかけづくりに努め、村内外の人材が積極的に活用される環境や仕組みづくりを進めます。（総務課）

若者交流・結婚支援

晩婚化や未婚率の増加による人口減少・少子高齢化対策として、若者が交流できる場を提供することで地域を活性化するとともに、結婚支援につなげます。大北圏域でも連携して交流事業に取り組むとともに、しあわせ信州結婚支援センター等と連携し、出会いの機会拡大や情報提供体制の充実を図ります。（総務課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
村内の若者交流 イベント開催回数	—	1 回／年
広域連携による若者交流 イベント開催回数	—	1 回／年

男女共同参画社会の推進

すべての住民の人権を尊重し、性差に関係なくお互い支え合う心を持ち、平等な参画機会が確保される村づくりを目指します。また、労働条件や固定体役割を見直し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の充実を図るために、関係機関と連携して啓発活動・意識づくりに取り組みます。

白馬村第二次男女共同参画社会づくり計画(平成 25 年度～平成 29 年度)

基本理念

～ちっちゃなことから始めよう～ 会話・参加・行動から生まれる自分らしさを生かせる社会づくり

基本目標

- ・ 男女共同参画社会実現のための意識づくり
- ・ 男女共同参画社会実現のための社会環境づくり

女性活躍の促進

啓発・広報活動に積極的に取り組み、各行政区の役員への参画促進や村の職員の女性の割合を高めることで、女性の活躍・社会参加を促進します。(総務課)

指標	現状値(H27)	目標値(H32)
講演会の開催回数	1 回／年	2 回／年
白馬村役場の女性職員の 採用割合	0%	30%

自然 魅力ある自然を守る村

かけがえのない山岳自然環境を守る村づくり

天恵の自然との共生

環境保全を推進するうえで、第4次総合計画の基本理念である「白馬の里にひと集い 暮らし健やか むらごと自然公園」の考え方を踏襲し、世界に誇る山岳環境とその景観を守り受け継ぐことが大切です。住民一人ひとりの環境保護意識の向上を促し、観光客への啓発にも取り組むことで、美しい自然環境に囲まれた豊かな暮らしを守ります。

自然環境保護

雄大な山岳自然環境を財産として認識し、グリーンパトロール活動等を実施することで、白馬連山高山植物帯や八方尾根高山植物帯、親海湿原や名水百選に選ばれている姫川源流等の貴重な自然環境を保護します。また、山小屋や平地の公共観光施設において、環境配慮型トイレへの改修を順次進めます。（観光課・スポーツ課）



指標	現状値(H26)	目標値(H32)
環境配慮型トイレへの改修	1 か所	2 か所

自然エネルギーの利活用

地球温暖化や化石燃料の枯渇等の地球環境問題には、新エネルギーの導入が有効な対策となります。恵まれた本村の自然環境を今後も守り続けるため、環境への負荷が少ない循環型社会を目指し、積極的に自然エネルギーを活用します。

クリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用

農業用水路を活用した小水力発電、ペレットストーブの購入助成、ペレット流通システム等を推進するとともに、バイオマス等の再生可能エネルギーや、雪・温泉といった地域特有の資源の活用について研究します。また、計画的に電気自動車等の低公害公用車両を導入します。（農政課・総務課）

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
小水力発電量	—	140 万 Kwh／年
ペレットストーブ 購入補助件数	5 件	累計 30 件
ペレット販売数量	689 袋	1,200 袋
低公害公用車両数	4 台	6 台

自然との生き方を受け継ぐ村づくり

守るべきふるさとの歴史と文化の継承

先人が守り抜いた歴史や文化に誇りを持ち、暮らしの中で次世代に継承しながら地域資源としての活用を図ります。登山・スキー・民宿といった本村の伝統を尊重し、自然と共に過ごす豊かな暮らしを永続的に受け継ぎます。

先人が築いた有形・無形文化の継承

伝統と文化を尊重する精神を育み、村に伝わる有形・無形の文化を継承するとともに、国、県、村指定の文化財の保護と活用を図ります。子どもから大人まで幅広い住民が郷土を学ぶ機会を提供し、郷土を愛する気持ちを育てます。（教育課）



登山・スキーの歴史・文化の継承

100年以上の歴史を有する山小屋やスキーは、本村の発展の礎となりました。先人が切り拓いた山岳の歴史・文化を次世代に継承するため、関係機関と連携し、子どもから高齢者まで幅広い住民が登山やスキーなどに親しむ機会を増やします。(スポーツ課・教育課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
週1～2回スキーをする 住民の割合	小学生 29.0% 中学生 20.8% 成人 8.7%	小学生 33.0% 中学生 24.0% 成人 10.0%
白馬村体育協会 スキー教室参加者数	81人	90人以上

美しい景観を守り育む村づくり

自然環境に調和したまちづくりの推進

白馬岳を中心とした雄大な北アルプスの山岳資産の恩恵を受け山岳観光地として発展してきた本村にとって、世界に誇る山岳景観美を守ることが最も重要な使命です。「世界水準の滞在型観光地」を目指す白馬村にとって、山岳景観に調和した景観形成・開発が課題となっており、守るべきものは守るというスタンスは基本にしながら、今後の開発のあり方を考える必要があります。また、山岳景観の麓に広がる田園風景も守るべき貴重な資源であり、一人ひとりが「美しい村づくり」を意識することで、住む人も訪れる人も魅了するまちづくりに努めます。

白馬村まちづくり環境色彩計画

基本コンセプト

もてなしの万博理想都(リゾート)・白馬

色彩景観のコンセプト

もてなしのしつらえ～景観でもてなす～

世界水準の観光地に相応しい開発基準

国内外の資本による大規模開発等に対応するため、世界水準の観光地に相応しい開発基準について環境審議会とともに研究します。

美しい風景を守るための景観形成

景観形成重点地域指導基準・屋外広告物設置基準を守り、白馬村まちづくり環境色彩計画や住民協定による景観形成を推進します。また、山岳景観に調和したまちづくりのため電線の裏配線・埋設など無電柱化を推進します。(総務課、建設課)

空き家・廃屋対策

空き家台帳を整備し、定住促進への有効活用や除却を促すことで景観を保全します。また、廃屋化した建物については、所有者による除却を促すとともに、廃屋対策事業を継続します。(総務課)



不法投棄・野外焼却の防止

不法投棄監視パトロール等の実施により、不法投棄と野外焼却の防止を図ります。また、「美しい村と快適な生活環境を守る条例」に基づき、空き缶等の投げ捨て、飼い犬等のフンの放置、廃自動車の放置等の防止を図ります。

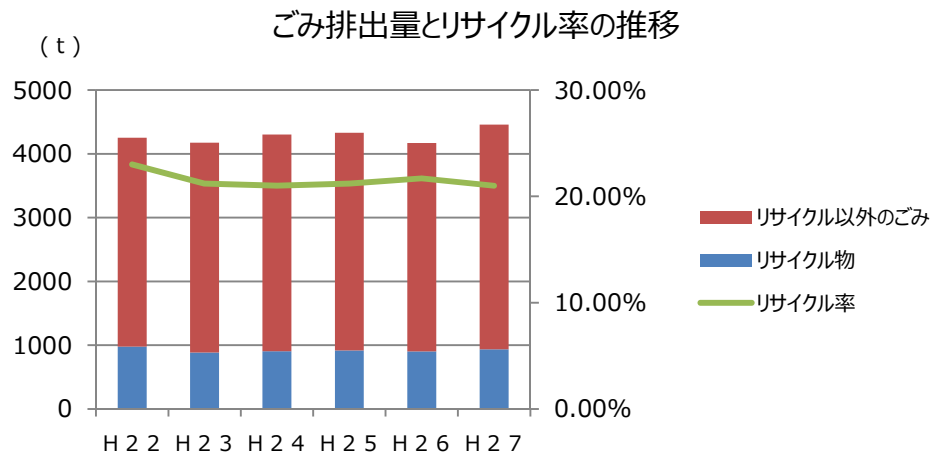
きれいな水と空気に囲まれる村づくり

ごみ処理広域化への対応とごみ減量化

大町市に建設される新しいごみ処理施設が平成 30 年度から稼働することになり、大町市・白馬村・小谷村の 1 市 2 村のごみ処理が広域化され、現在の白馬山麓清掃センターは平成 30 年度中に稼働を停止します。今後は北アルプス広域連合において策定される一般廃棄物処理基本計画に基づいて、ごみ収集体制の整備、ごみ減量化の推進を図ります。また、ごみの減量化に向けては、村民一人ひとりが適正なごみの分別や出し方に積極的に取り組むことも重要です。



新ごみ焼却施設完成予想図(大町市源汲地区)



ごみ収集・運搬体制の強化

現在、白馬山麓清掃センターへのごみの直接持込量は、全体の約半分を占めていますが、広域化後は直接の持込みが困難になるため、各地区の地区集積場を拡充・整備する必要があります。今後は、行政区が行うごみ集積場の整備を積極的に支援し、ごみの収集体制を強化します。また、村民が円滑かつ適切にごみを出せるような収集方法を検討し、ごみ処理がスムーズに実施できる体制を整備します。(住民課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
地区集積場箇所数	52	57

ごみの削減と分別の徹底

ごみ処理広域化に伴い焼却ごみを減らす必要があります。そしてそのためには、焼却ごみの約半分を占める生ごみの削減が重要となることから、今後も、家庭用生ごみ処理機の購入に対する補助事業等により、生ごみの自家処理の普及促進を図るとともに、生ごみ処理施設の建設について研究を進めます。(住民課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
生ごみ処理機利用世帯数	150 世帯	300 世帯
焼却ごみの量	3,000t／年	2,900t／年

北アルプス広域連合との連携によるリサイクルセンターの活用とリサイクル率の向上

北アルプス広域連合において新たに村内に建設されるリサイクルセンターの活用と、ごみの分別指導の強化により、4R*(リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル)を進め、リサイクル率の向上を図ります。

(住民課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
リサイクル率	21.7%	30.0%

*4Rとは… リフューズ:不要な物を買わない リデュース:ごみを減らす
リユース:繰り返し使う リサイクル:再資源化する

きれいで安心・安全な水環境

豊かな水源を後世のために維持・保全し、住民や観光客のためにきれいでおいしい水道水を安定的に供給することはもちろん、水の大切さに関する啓発に取り組めます。また、中長期を見据えて計画的に施設を更新するとともに、経営財政状況を分析し、効率的な経営と事業運営に努めます。

白馬村水道事業ビジョン(平成 28 年度～平成 37 年度)

基本理念

自然の恵みをそのままに。おいしい白馬の水道水

基本目標

- ・ 安全な水道－誰もが安心しておいしく水が飲める安全な白馬村の水道
- ・ 強靱な水道－本当に必要な時に常に備え、災害時を想定しどんな状況でも利用できる強靱な水道
- ・ 水道サービスの持続－使用者の満足度と安定した経営による持続可能な水道

上水道の安定供給

安心・安全な水道水を安定的に供給するために、アセットマネジメント(資産管理)による将来予測に基づき、水道施設更新計画を平成 29 年度に策定します。また、長期的な視点から本村における適切な水道料金を研究します。(上下水道課)

水質保全

水質保全の意識啓発と、定期的な美化清掃などの保全活動を推進して、水環境や生態系を守ります。また、水源涵養の役割を果たし、土砂浸食などの災害を未然に防止している自然林の保全に努めるため、関係機関と協力・連携していきます。(上下水道課)

浄化センター長寿命化

平成 30 年度までの 4 年間を計画期間とした長寿命化計画(ストックマネジメント計画)に基づき、更新事業を実施します。また、平成 32 年度からの第 2 期長寿命化計画の策定を平成 31 年度に実施します。(上下水道課)

指標	現状値(H26)	目標値(H32)
機械・電気設備の更新	29%	100%

公営企業会計導入

国の方針である“下水道事業の公営企業会計適用”への対応を進めます。(上下水道課)

効率的なし尿処理方法の確立

現在、白馬山麓環境施設組合の処理施設「クリーンコスモ姫川」で行っているし尿処理について、今後処理量の減少や施設の老朽化による維持費用の増加が見込まれることから、より経済的で効率的な処理方法を研究し、新たなし尿処理方針を決定します。また、浄化槽の維持管理の適正化を促進して水質汚濁の防止を図ります。(住民課)

